

27T-pm11S

日本医薬品市場の特殊性及び今後の医薬品開発の方向性に関する薬学—経済学横断的研究

○柴田 翔洋¹, 鈴木 岳之¹ (1慶応大院薬 薬学教育研セ)

【目的】製薬企業がビジネスを成功させるためには、積極的な研究開発 (R&D) への投資が必要不可欠である。それゆえ、製薬企業は、国内及び国外で売上が期待できる治療領域を認識し、その上で R&D に取り組む必要がある。日本の医薬品市場は、アメリカに次ぐ世界第 2 位の市場であり、世界の医薬品市場の約 10% を占める。しかしながら、その市場構造に関する詳細な報告は少ない。本研究では、世界各国のマーケティングデータを使用し、海外市場と比較した場合の日本の医薬品市場の特殊性、すなわち日本の医薬品市場で収益が担保される治療領域を、薬価制度との関連から明らかにすることを目的とする。【方法】本研究ではアイ・エム・エス・ジャパン株式会社 医薬品市場データに基づいてデータベースを作成した。世界、日本、アメリカ、イギリス、フランス、及びドイツの医薬品市場における 2010 年 1 月から 2016 年 12 月までの医療用医薬品を本研究の対象とした。本研究で行われた統計解析は SPSS Statistics® を用いて実施した。【結果】現在の日本の医薬品市場では、循環器系薬剤の収益性が高く、抗悪性腫瘍薬、免疫調節薬、及び中枢神経系薬剤の収益性は高くないことが分かった。一方で、世界の医薬品市場では、抗悪性腫瘍薬、免疫調節薬、及び中枢神経系薬剤の収益性が高く、循環器系薬剤の収益性は高くないことが分かった。しかし、2010 年以降の日本の新薬開発は、主に抗がん剤及び中枢神経疾患の薬剤に焦点を当てて行われていることが分かった。【考察】日本の医薬品市場は、海外市場と類似した市場に移行することが予想され、現在はその過渡期にある。製薬企業にとって、今後の日本で収益を見込むためには、抗がん剤及び中枢神経疾患領域の薬剤開発は急務であると考えられる。